

令和３年度 碧南市病院事業報告書

1 概況

（１）総括事項

ア 業務状況

碧南市民病院は開院３３周年を迎え、この間、地域の二次救急医療機関として、また市民の生命と健康を守る地域の中核的な病院として役割を果たすべく尽力してまいりました。

依然として新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で、令和３年４月に６５歳以上の高齢者を対象に新型コロナウイルスワクチン接種が開始されました。当院におきましても、令和３年５月からワクチンの個別接種を開始し、令和３年度は延べ５，８７２回の接種を行い、ワクチン接種の促進に努めました。感染状況につきましては、令和３年６月下旬頃から始まった第５波では、令和３年８月２７日に愛知県で過去最多となる２，３４６人の新規感染者数を記録し、令和４年１月から始まった第６波では、感染力の強いオミクロン株が主流となり、令和４年２月１１日には６，６６２人と過去最多の新規感染者数を更新しました。当院におきましても、新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関として、医療提供体制の整備に努めました。

病棟改修につきましては、改修計画の策定に取り組む中で、昨今の入院患者数の減少や新型コロナウイルス感染症の方策等を鑑みて、病棟の再編及び病床数の適正化について検討を行い、病床数を３１９床から２５５床に変更することになりましたが、ダウンサイジングにより医療機能を低下させることなく、感染者用病床やＨＣＵの整備を行い急性期機能の充実を図ってまいります。なお、改修工事期間は令和４年５月から令和５年７月までを予定しています。

医師の確保対策としましては、近隣医大の医局訪問を積極的に行っており、長らく常勤医師が１人で、一部の診療で制限が生じていた消化器内科と脳神経外科については、令和４年度から１人ずつの増員を予定しております。なお、年度末現在の医師数は前年度末より１人増の４５人となりました。今後、更なる診療体制の強化を図ってまいります。研修医については、修学資金条例に基づき修学生を募集し２人の医学生を確保したほか、５人の研修医の受入れを行いました。

医業収益につきましては、対前年度比７３７，０００，０００円余の増加となり

ましたが、依然として新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少が続いており、感染拡大前の令和元年度と比較すると入院患者数、外来患者数ともに15パーセントの減少となりました。新型コロナウイルス感染症に関する患者の増加に伴い診療単価は増加傾向にあり、入院患者一人当たりの診療単価は対前年度比1,120円増加の51,075円、外来患者一人当たりの診療単価は対前年度比845円増加の14,107円となりました。また、医業外収益は新型コロナウイルス感染症関連の補助金や他会計補助金の受入れにより、361,000,000円余の増加となりました。

医業費用では職員増に伴う給与費の増加や患者増に伴う材料費の増加等により、対前年度比224,000,000円余の増加となりました。

結果として、令和3年度は82,000,000円余の純利益となり、令和2年度と比べて855,000,000円余の改善となりましたが、医業収益は依然として厳しい状況が続いています。

イ 患者数

入院患者（退院含む）は、71,516人（1日平均195.9人）で昨年の63,196人より8,320人の増加、また、外来患者数（時間外含む）は、137,937人（1日平均570人）で昨年の125,884人より12,053人の増加となりました。

ウ 収益的収支

病院事業収益は8,061,730,319円、病院事業費用は7,978,807,405円で、当期純利益は82,922,914円となりました。

エ 資本的収支

資本的収入は897,913,000円、資本的支出は698,738,252円で、差引額は199,174,748円の収入超過でした。

収入については、一般会計からの繰入として出資金274,861,000円、一般会計からの補助金500,000,000円、企業債118,000,000円、看護師修学資金返還金として5,052,000円を受け入れました。

支出については、浄化槽処理水圧送管撤去工事、空冷ヒートポンプチラー更新工事、病棟改修設計業務委託等の建設費として100,750,100円、過酸化水素低温ガスプラズマ滅菌装置、超音波画像診断装置等の機器備品を購入するための

資産購入費として93,726,573円、ほかに企業債償還金（元金）として486,141,579円、投資として医師、看護師等修学資金貸付金18,120,000円を執行しました。

（２）経営指標に関する事項

令和3年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、新型コロナウイルス感染症関連の補助金や他会計補助金の受入れに伴う医業外収益の増加により対前年度比11.1ポイント増の101.1パーセントとなり、健全経営の水準とされる100パーセントを上回りました。しかしながら、経営の収益性を示す修正医業収支比率では、新型コロナウイルス感染症に伴う患者数の減少等の影響を受け、令和2年度は65.8パーセントまで減少しましたが、患者数が再び増加してきたことや診療単価の向上に伴い、令和3年度は対前年度比7.4ポイント増の73.2パーセントとなりました。

一方、施設がどの程度利用されているかを示す病床利用率は、令和2年度は54.3パーセント、令和3年度は61.4パーセントと新型コロナ感染症拡大前の令和元年度と比較すると10ポイント以上の減少となりました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響による入院患者数の減少と、新型コロナウイルス感染症の対応として患者受入れのための病床確保を行っていることによるものです。病床の有効活用については、病棟改修によって病床数を255床へと変更することで、より一層の病床規模の適正化を図り、入院患者の療養環境の向上に努めてまいります。

	H29	H30	R1	R2	R3
経常収支比率	88.6%	86.5%	87.4%	90.0%	101.1%
修正医業収支比率	79.8%	77.6%	77.5%	65.8%	73.2%
病床利用率	75.3%	72.1%	71.6%	54.3%	61.4%

【経常収支比率＝（経常収益／経常費用）＊100】

【修正医業収支比率＝（（医業収益－他会計負担金）／医業費用）＊100】

【病床利用率＝（年延入院患者数／年延病床数）＊100】

